

## ◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(共に, 30歳代の女性)あります。血清型・毒素型は, いずれもO157(VT1VT2)で, 34週に報告された患者の家族であることから, 原因として接触感染が考えられます。
- ・ アメーバ赤痢の報告が1例(男性, 50歳代)あります。症状は, 下痢・肝膿瘍です。感染地域は国内で, 感染経路は性的接触(同性間)です。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 1.65(66例)です。第28週をピークに減少傾向にありますが, 依然として過去5年の平均値を上回っています。全国の定点当たり報告数は, 先週(3.98)から少し増加(4.41)しました。依然として, 警報レベルの5以上となっている県がありますので, 今後も動向にご注意下さい。

## ◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の報告が4例あります。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 31例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管及び腸管外アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 14例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.73	69
	② 手足口病	1.65	66
	③ 突発性発しん	0.53	21
	④ ヘルパンギーナ	0.38	15
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.33	13
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

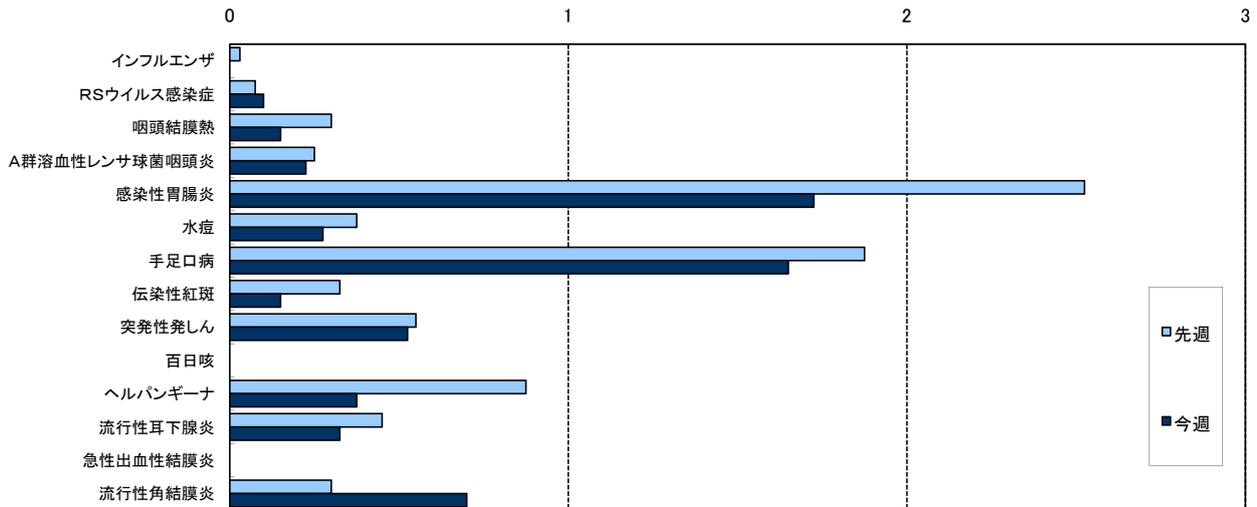
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

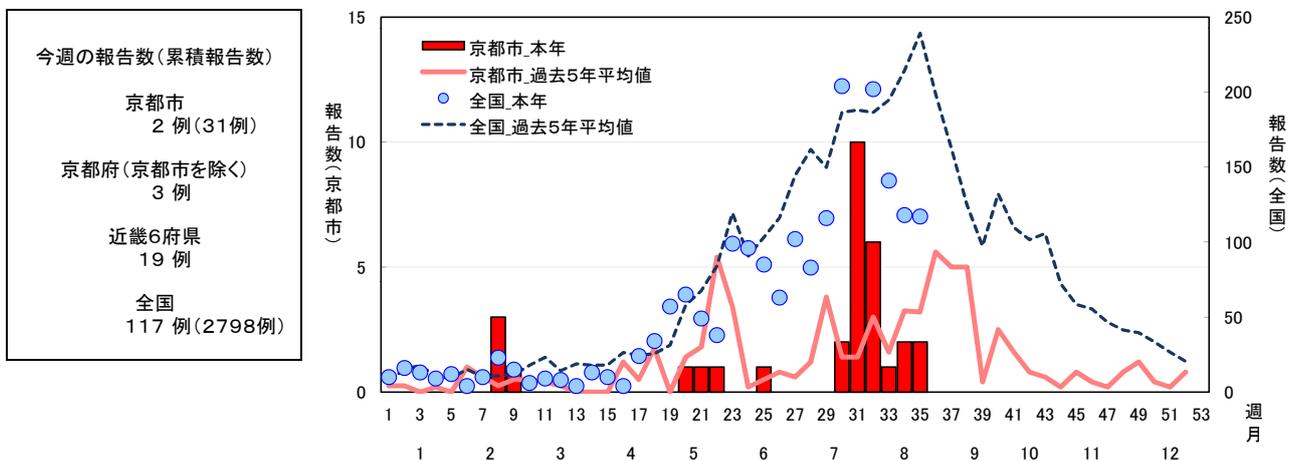
(注) 京都市のデータは, 平成23年9月8日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第35週)と先週(第34週)の定点当たり報告数の比較

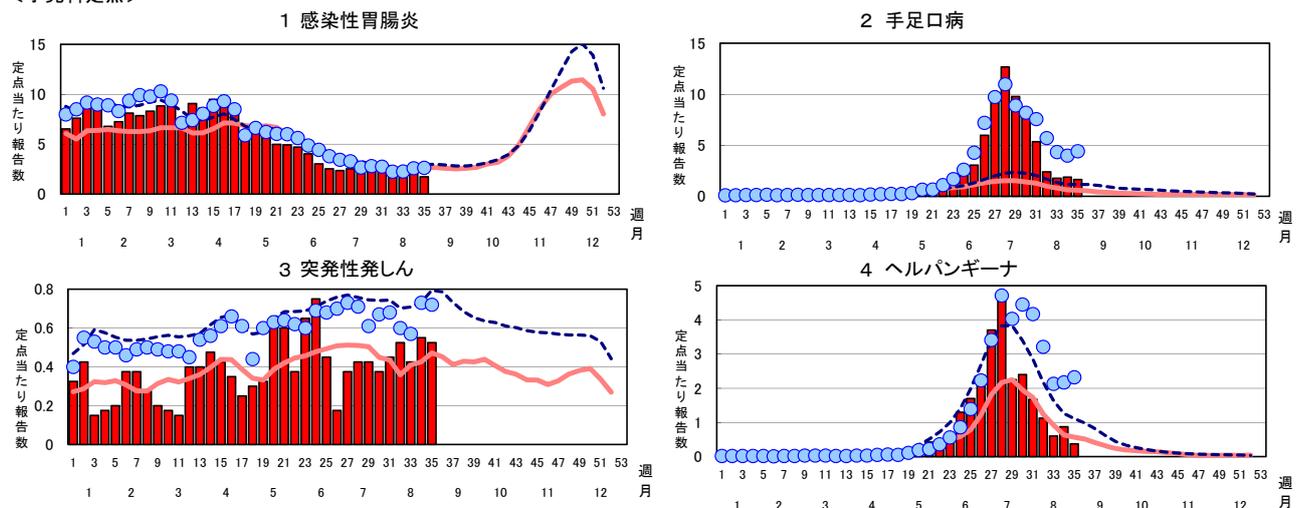


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

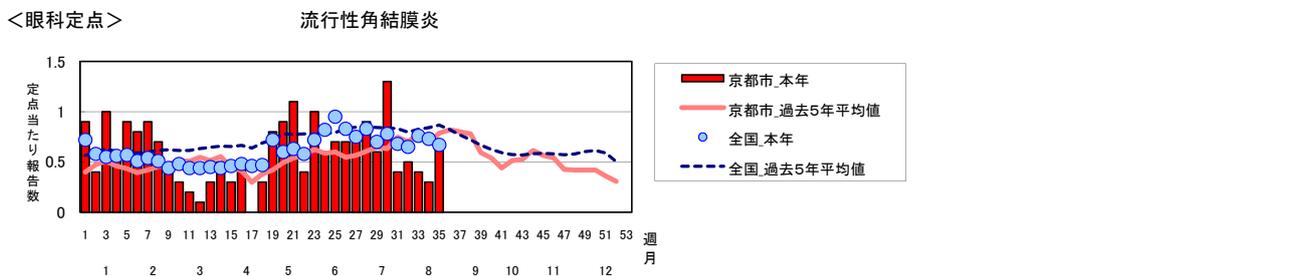


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第35週(8月29日～9月4日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の報告が4例あります。例年は秋から冬にかけて流行し、夏季にはほとんど報告がありませんでした。本年は、第27週(7月4日～7月10日)以降連続して報告があります。全国でも報告数が増加しており、今後の動向に注意が必要です。

第27週から第35週までの累積報告数を年齢階級別にしますと、1歳以下が68.0%を占めています。京都市衛生環境研究所において病原体定点からの検体を検査した結果、RSウイルスは、5月から7月の間は検出されていませんでしたが、8月にかぜ症候群から、1件分離されています。

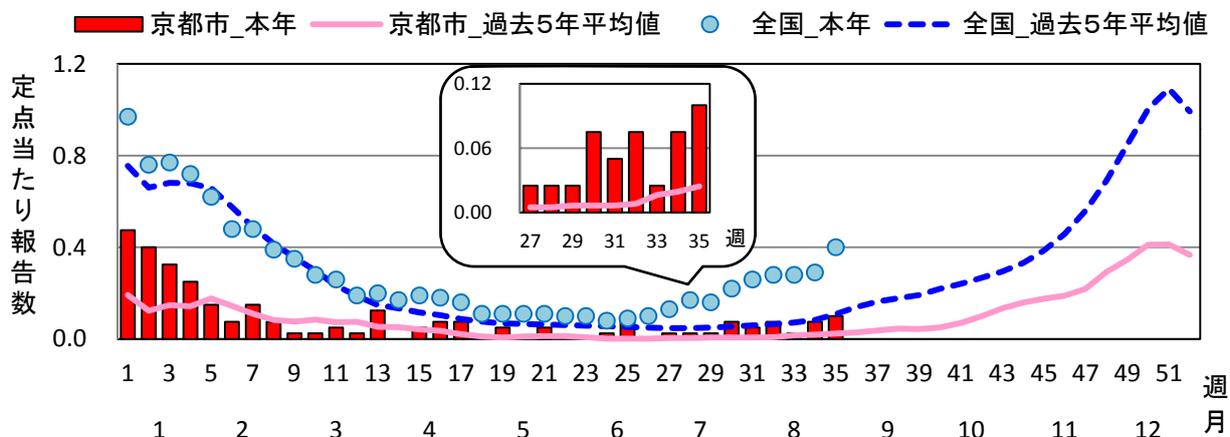
京都市衛生環境研究所ホームページに、RSウイルス感染症についての情報を掲載しています。  
微生物部門ホームページ RSウイルス感染症について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000076939.html>

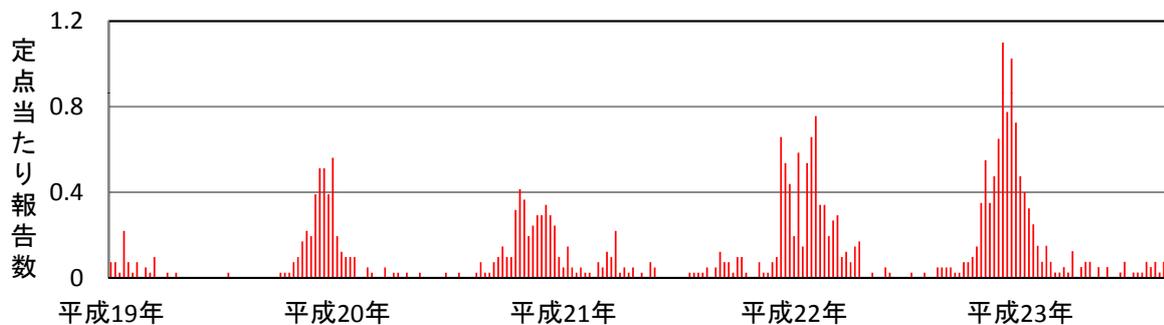
京都市感染症週報平成22年第10週・特集(RSウイルス感染症)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000071/71285/10-syuhohp4.pdf>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の平成19年以降の報告数の推移



年齢階級別割合

